

ようこそ私立幼稚園へ

神奈川県私立幼稚園連合会で発行している会報「神私幼」父母の会版を加盟園保護者の皆様にお届けします。

父母の想いをリレーして未来へ

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会

会長 佐東 すみれ



本年度、神奈川県私立幼稚園父母の会連合会の会長を務めさせていただきます佐東すみれと申します。

2020年春、未知のウイルスに脅威を感じながら進級・入園を迎えた私たちですが、どんな状況下でもすくすく育つ子どもの逞しさに触れ、幸せを再認識したことも事実です。以前のように外出もままならない現在、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

父母連は、例年より半年遅れの9月半ばに、厳戒態勢の中で委員会が行われ発足しました。11月には、集わずにできる父母の会活動の手始めとしてYouTube Liveという新しい形式での研修大会を開催しました。ご視聴いただいた皆様に深く御礼申し上げます。

開催後は、私共が思っていた以上の反響をいただき大変嬉しく思っております。大豆生田先生の講演における心を打つ金言の数々は、副会長の滝澤がレポートを寄せていますので併せてご覧ください。Youtubeのトラブルなどの課題はありましたが、今まで会場に足を運びづらかった方でも自宅から視聴できるというメリットがありました。また、感想フォームから多くのご意見や今後の活動へのアイデアをいただき、父母連としても実りのある成果を得られたと感じております。ひとつひとつに感謝して、今後の活動の礎にしていきます。

父母連の活動には、「教育の原点は家庭にあるため、子育ての理解を深めるセミナー等を開催をする」「地域活性とよりよい街づくりのために地域交流などで意見を発信する」「教育費について考え幼児教育の無償化制度の改善を訴えていく」という3つの柱があります。時代にあった活動内容を模索していく中で、保護者の皆様からのアイデアをお待ちしております。イベント開催の際、または常任委員までぜひお声をお寄せください。

未来を担う子どもたちへ、私達が出来得る精一杯の力で、最善の環境づくりに努めていくことをここに決意いたします。

コロナに負けない幼稚園

公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会

会長 小澤 俊通



新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの日常生活はもとより、幼稚園での生活も一変させてしまいました。この4月には政府の緊急事態宣言の発令を受け、入園式・始業式も実施されず、全ての園がそのまま臨時休園となってしまいました。ようやく5月25日に緊急事態宣言は解除されたものの、幼稚園の再開は6月からとなりました、再開後も3密を避けるため、分散登園とする園が多く、ようやく7月頃には正常に近い姿に戻った感じが致します。それでも依然として感染は収まる気配もなく、寒い冬を迎えようとしています。

このような状況にあっても、お子様は元気に幼稚園に通っておられることと存じます。子ども達は小さな心で一日一日を乗り越え、与えられた環境の中で伸び伸びと過ごしていることでしょう。それは何と素晴らしい事ではないでしょうか。人生のスタートラインに立ち、力強く歩んでいる子ども達に大きな拍手を送りたいと思います。

さて、神奈川県内には約720の幼稚園がありますが、その内9割が私立の幼稚園です。さらに在園している園児の95%以上が私立幼稚園の園児です。つまり、県内の幼児教育は、ほぼ私立幼稚園が担っていると言っても過言ではありません。

保護者の皆様は、それぞれの家庭の教育観とお子様の姿に合わせて、通われる私立幼稚園を選ばれました。毎日の幼稚園生活から、きっとこの幼稚園にして良かったと思われていることでしょう。しかし、そのような教育環境を支える保護者の経済的な負担は決して軽いものではありません。その経済的な負担を大幅に軽減するべく、「幼児教育の無償化」は実施されました。長年の要望活動が実現したことは大きな喜びであります。

また、文部科学省の調査で、幼稚園に通うご家庭の42%は母親も仕事を持っている事がわかりました。母親の働き方は様々でしょうが、今の社会では「働いていても幼稚園へ」の流れは自然のものとなりました。県内の90%以上の幼稚園が「預かり保育」を実施しており、その充実にも努めています。お子様との時間を大切にしながら、幼稚園という良質な幼児教育を実感して頂ければ幸いです。

やがて子ども達は成長するにつれ、親から離れて自立していきます。今は大変でも、後で振り返ってみると、「子育て」の時間はどれほど貴重であったか気づかれる事でしょう。どうぞ、「子どもは子どもの中で育つ」ことを信じて、毎日の子育てを楽しんで下さい。

これからも、「コロナに負けない私立幼稚園」を応援して下さることを、心からお願い申し上げます。

県父母連委員総会報告

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会の委員総会が9月18日にかがなわようちえん会館会議室で開催され、令和2年度常任委員が下記のとおり選出されました。よろしく願いいたします。

令和2年度 父母連常任委員名簿

役職	氏名	園名(協会)
会長	佐東 すみれ	鹿島田幼稚園(川崎)
副会長	福島 留実	大楽幼稚園(川崎)
副会長	滝沢 広夏	飯島幼稚園(横浜)
会計	鰐部 由季	三恵幼稚園(横浜)
会計	藤本 夏彩	綾瀬幼稚園(相和)
委員	寺澤 まり絵	英明幼稚園(横浜)
委員	川村 亜由美	津久井幼稚園(横須賀)
委員	石上 真美	つくし幼稚園(湘央)
監事	小川 智子	横浜孝道幼稚園(横浜)



コロナ禍における父母の関わり方 ～最高のおうちじかんにするためのヒント～

街路樹が美しく紅葉する清々しい秋晴れの中、研修大会初のYouTubeによるライブセミナーが開催されました。早朝にもかかわらず県内全域より大変多くの会員の皆様にご視聴いただき、ありがとうございました。

はじめに、父母連・佐東すみれ会長より親しみやすいエピソードを交えながら「父母連の3つの活動目的について」のお話があり、続いて県連・小澤俊通会長より「教育の原点である家庭が最善の生活環境となるよう、幼稚園と家庭との連携が必要である」とのご挨拶がありました。ご来賓の私学振興課長・山中毅様より「県の未来を担う子ども達」への力強いメッセージを頂戴し、次世代育成課長・川上亮様には、「コロナによりさらに少子化が懸念される中ですべての子どもが人として尊重され、保護者の皆様が安心して子どもを産み、育てることができる社会を作っていきたい」という心強いご挨拶をいただき、様々な事を見つめ直すきっかけとなりました。

開会式が修了し、父母連・福島留実副会長から大豆生田啓友先生の紹介がありました。例年であれば、県立音楽堂で1000人規模の講演会が行われますが、今年は会議室での開催でした。目の前にいらっしゃる大豆生田先生の優しく語りかけるような言葉に笑みがこぼれたり、涙を流したり…大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

3児の父親である大豆生田先生が、1人目のお子様を育てていらっしゃる時のことです。奥様に「それでも面倒みているつもり？」と言われたことがきっかけで、少しずつ育児に関わるようになったそうです。イヤイヤ期の子どもをお風呂に入れようとしたけれど、結局入れられなかったというエピソードを聞き、保育のプロである先生も育児で大奮闘されていたのだと土のような気持ちになられた方もいらっ



日時 令和2年11月12日(木)10時～
会場 かながわようちえん会館
講師 大豆生田 啓友先生(玉川大学教育学部教授)

しゃったのではないのでしょうか。

また、NHK Eテレ『すくすく子育て』で共演された、くわばたえさんがイヤイヤ期の子どもを放っておいてしまい「私の子育てはダメなんでしょ?」と質問され、大豆生田先生が「(毎日、子育てをしていたら)あたりまえ、当然なこと」と答えられ、くわばたさんが涙を流し、視聴者から大反響の回になったそうです。イヤイヤ期は、前頭前野の発達が未発達のため、そういう時期だと理解し、気持ちが良いそうです。

今、ワンオペ育児という言葉をよく耳にするようになりましたが、子どもはずっと以前から群れの中で育つものだったそうです。けれども、核家族化が進む現在は地域での子育てが難しい時代です。そこで、現代こそ幼稚園の果たす役割が大きく、幼稚園にこそ「最高のおうちじかんの過ごし方のヒント」があるそうです。そのヒントがこちらの4点です。
①できない事ではなく、子どものよさに目を向けよう(他者から期待されることによって成長が高まる、ビッグマリオン効果)、②自然との関わりや外遊びを大切に(ポリ袋に拾ったものを入れる、近所のお散歩のすすめ)、③作る、書くなどの造形遊びができること(工作コーナーのすすめ)、④絵本の読み聞かせ(愛されたという幸せな記憶が残り、困難な現実を乗り越える力となる)

ある幼稚園の年長クラスでは、夏にセミ取りが流行り、子ども達が冷房の効いた室内にセミを持ち込んだことがあったそうです。保育者がセミの一生の科学的絵本を読み聞かせると「セミの幼虫は6年間土の中で過ごし、成虫になると間もなく死んでしまう」という事実を知って「ぼくと同じ6歳なのに、もうすぐ死んでしまうのだ」と気付き、教室にセミを持ち込まなくなったそうです。幼稚園では、保育者が子どもの興味・関心に即した絵本や図鑑をうま

く準備し、クラスの皆で思いを合わせることで遊びながら学ぶ(プレイフル・ラーニング)が自然とできるそうです。そして、遊びこむ経験をした子どもは学びに向かう力が高く、非認知能力、粘り強さ、自尊心が高くなるそうです。ジェームズ・ヘックマンの研究によれば、幼児期の教育がその後の教育よりも人の生涯の幸せや経済力に大きく影響を及ぼすといひ、幼児期の教育の大切さを痛感しました。

AI化が急速に進む昨今ですが、必要とされる21世紀型スキルとは、知識の詰め込みではなく、何も無いところから何を生み出すことができる能力を備えること、そのためには幼児期に遊びの中で夢になって遊びこむ経験が大切とのことでした。

大豆生田先生のお宅では、コロナウイルス感染拡大防止の自粛期間中、毎日家族と散歩をされていたそうですが「先生のリフレッシュ方法は?」という保護者からの質問に「コロナによって家族で過ごす何気ない日々が幸せと感じます」とおっしゃっていた先生の言葉が忘れられません。

コロナウイルス感染拡大防止のために家族で過ごす時間がふえた分、大豆生田先生のように毎日の小さな出来事に目を向けて幸せを感じられるようになりたいと思いました。

最後に、日々子どもに向き合うすべての方に、この講演会の中で私の心に響いた3つのことばを紹介したいと思います。カナダの子育てのスローガン「Nobody's Perfect(完璧な親なんていない)」とイギリスの小児科医ウィニコットの「good enough mother(まあまあ親でよい)」「機嫌のよい親が子どもの良い成長を促す」ということばです。

今回、このような機会に恵まれたことに感謝すると共に、皆様の今後にお役に立ていただければ幸いです。

神奈川県私立幼稚園父母の会連合会
副会長 滝沢 広夏

令和2年度父母の会研修大会 大豆生田先生による講演
「コロナ禍における父母の関わり方」
～最高のおうちじかんにするためのヒント～を限定公開!

1. 公開期間 12月10日(木)～24日(木)
 2. YouTube配信URL <https://youtu.be/gSHxWhN7BvQ>
- ★こちらから感想をお寄せください! <https://bit.ly/3mWOF2x>



教育相談事業

自分は困っている、と気づくこと

ご近所に赤ちゃんが生まれました。昼間は両親のいるお近くの実家で過ごしているそうです。夫の仕事が在宅になった事情もあります。時々赤ちゃんだけ預かりにおじいちゃんがいそいそと車で迎えに行くこともあります。大変に恵まれた環境で、お母さんも「私はラッキーだった」と言っています。多くのお母さんはもう少し孤独で子育てしていませんか?本来子どもは母親だけが育てるわけではありません。そうだったのはせいぜい戦後で長い歴史はないのです。

家族(兄弟、叔父叔母、いとこなども含めて)全員が育てていました。ですから今のお母さんは子育てで困って当然なのです。でもなかなか助けてと言えません。なぜでしょう?私はお母さんが助けて欲しいと思っていることにご自身で気づいていないからではないかと考えています。当然の悩みなのです。もし助言が必要と思われましたらご連絡ください。



教育相談員
鈴木 敦子 先生
(臨床発達心理士)

- 形態 教育相談に係る講演および幼稚園への出張相談、及び電話相談、面談。(面談による相談は「ようちえん会館」にて行います。)
- 実施曜日 毎週 火曜日 10:00～12:00
毎週 木曜日 14:30～16:30
巡回相談及び講演(要相談)
- 相談費用 無料
- 相談申込 電話またはホームページから、神奈川県私立幼稚園連合会事務局へ申込みください。



TEL. 045-440-3210

●ホームページ
<http://www.shinshiyou.com/education.html>